

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま西浦和教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画をきちんと共有し、認識の一致やそれに対して必要な幼保園の訪問実施	「個別支援計画」とは何か?の勉強会を行った 2回目以降のアセスメントシートに記入していただきたいことなどを説明 また次の個別支援計画が完成した際には、保護者との支援計画更新内容確認はお子様の活動見学もお誘い認識の確認を行っている	継続した勉強会の実施・説明。 お子さまへの支援の想いの統一をはかる。 見学会などで保護者とお子様のことを話す際には、支援内容をもとにして話をする機会を作り、保護者の方にも支援者にも支援計画の重要性や成長を意識してもらえようにする。
2	個々の児童の個別支援計画に合わせてプログラムの制作 また契約曜日の児童にあったプログラムの立案	曜日によって契約している児童を確認し支援内容を決め、プログラムの立案を行い、契約曜日以外のお子様も、参加してほしい児童には個別にお声がけをし参加を促している	継続して行いつつ、CSだけでなくAP指導員にもプログラム案を聞いて、参加を促す。 プログラム会議などを実施。
3	保護者や児童が安心して通うことが出来ている	保育園送迎が多く、ご家族とのコンタクトが難しいことが課題であるため、保護者送迎の際、お電話をしてくださった時などに積極的にお話をしたり数分ほど様子を見ていただけるように声がけを実施。保護者からの要望でなく、機会を作りだしている。	保護者への声掛けは児発管がメインでやっているが、ほかのCSも行っていけるようにする。 保育園送迎の児童、保護者との接触が薄くなりがちな児童に関しては、意識して電話などでの最近のご様子の共有などもしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事故防止マニュアルや非常災害時の訓練は定期的を実施していますが、「保護者に周知・説明されているか」という項目に対し、「わからない」という回答がありました。訓練の実施状況や安全計画の内容について、保護者様への情報発信と共有が分かりやすく行えていない点が課題です。	「利用日じゃないから知らない」「ブログに載っているが何を訓練しているのわかりにくい」等、避難訓練の大切さや保護者の目にする、回数が少ないことも原因と感ずる。	訓練の回数を増やし「保護者」にも参加していただく「引き取り訓練」の参加訓練の「おたより」等をだし、目にする回数を増やす。避難訓練を保護者会で実施する。 避難訓練実施とともに「緊急連絡先」の提出や内容確認をしていただき、災害発生時に備えていることを知っていただく
2	保護者研修や家族支援が少なく感じられている 保護者参加型プログラムの実施はあったものの、研修などの学ぶ機会の提供は十分に提供できていない状況だと思う。	保護者会が行われている認知度の低さや何を行っているのか不明瞭、伝わっていない。日時の広報が遅くなっている。	早めの保護者への実施の通達 保護者会後も「お便り」として周知し内容の共有。
3	指導員よっての児童への理解・技術や知識の差があると感じている保護者がいる	保護者への伝え方にばらつきがある。伝え方の統一。送迎では放デイの指導員が送迎にいくこともある。保護者引継ぎ時間のばらつき。	保護者への伝え方の統一・引継ぎの方法を考える。知識については積極的な研修、教室内の児童情報共有ツールの使用強化。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま西浦和教室		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援が同事業所内にあり長く在籍している職員が多くお子様と長期にわたって接することができる 集団プログラムの中でも、それぞれの課題に応じて個別にサポートすることを意識している。また、日替わりのプログラムを実施することで児童が楽しみながら活動することも強みだと思われる。	・こどもの信頼関係が築きやすい ・児発管の指示のもと担当振りを行い、指導員とのより良い関係性の上の支援ができるようにしている。 ・研修を行い、支援の内容一日の流れ、ロールやサブの動き方を統一し、指導員から意見を取り入れてPDCAを回している。	・研修にて様々な意見があった。引き続き研修を行っていく。 ・児童の支援方法や一日の運営方法について共有したり意見を述べる機会をさらに増やしていく。
2	課題解決への速さ 送迎時やアプリ上での相談や聞き取ったことを迅速に担当者に伝えることや、面談の設定を行うことが強みであると思う。今後も継続と、より広く相談できる機会を設けていきたい。	・研修を行い、支援の内容一日の流れ、ロールやサブの動き方を統一し、指導員から意見を取り入れてPDCAを回している。 ・情報収集を行う。 ・保護者からの問題の提起があった場合以外でも自分たちで問題を見つけることを意識。	・運営方法や児童の支援方法について話し合い、色々な方法を実施、振り返りをしてより良い支援方法を見つけていく。 ・継続的な共有方法を模索。
3	保護者会やイベント、サロン、面談の実施 毎月プログラムのお知らせをしていることやイベント時には別紙をお渡ししていた。活動の様子はブログで公開し、活動内容をご覧いただける部分が強みだと思われる。	・教室外に特に課題感のある児童、保護者からの希望がある児童は積極的に学校訪問を行っている。 ・保護者が教室に気軽に来ることができるよう、様々な形で参加を促している。	・保護者会、勉強会の頻度や開催時期を検討し、より多くの保護者と児童の様子を共有する機会を増やす。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られたスペース	・クールダウンに必要な児童が複数になった場合、スペースがなく手狭に感じることがある。 ・パーテーションで区切っても大きな音の刺激に弱い児童がいる。	・教室の構造化を再検討中。状況に合わせて児童の活動場所を選ぶことができるようにする。 ・児発の小集団の時間を活用して、児発の部屋を使う。
2	兄弟への支援ができていない 実際に保護者会の際にお越しいただくことはあったものの、きょうだい向けのイベント開催は実施できていなかったため、改善が必要だと思ふ。	・保護者会や勉強会は行っているが、児童の兄弟も一緒に参加する機会が作れていない。	・保護者会や勉強会を通して、児童の兄弟にも参加してもらえる機会を作る。 ・ご家族で参加いただける機会の提供とともに、開催日時の早めの広報をしていく。
3	プログラムの内容に対する工夫が少なく感じる 普段の療育プログラムに加えて、より専門性の高いプログラムの実施が必要であると考えられる。	・長年通所している児童からすると、同じ内容が繰り返されてしまいつまらなく感じてしまう。 ・プログラムの名前が同じ＝毎回内容が同じと思われる。	・同じプログラムでも、やり方や内容を変えていく、違いをHUGや保護者会などでも知っていただく。 ・高学年向けのプログラムも行っていく。 ・引き続き、連絡帳にねらいとゴールを記入していく。 ・引き続きフィジカルトレーニングの小集団を行っていく。